

「海の研究」投稿規定

1. 「海の研究」は、海洋学とその関連分野の研究成果を発表する日本海洋学会の和文学術雑誌であり、原則として年6回発行される。

2. 投稿論文区分は、

- ・原著論文
- ・速報
- ・総説
- ・解説
- ・賞記念論文

とし、他の学術誌に未発表かつ発表予定のないもの、または投稿中でないものに限る。投稿は無料である。投稿された論文の採否は、査読を経て編集委員会が決定する。本誌に掲載された場合、著作権は日本海洋学会に帰属する。

原著論文は、海洋学に関する価値ある結論・知見を含む研究成果や、新しい研究手法を、長短にかかわらず、まとめた論文である。

速報は、原則として、図表を含めて4ページ(8,000字)以内で、原著論文の内容となりうる情報を含む研究成果や、新しい研究手法の開発結果などを出来るだけ早急に公表するための論文である。

総説は、ある主題に関する多くの研究成果を取りまとめたもの、研究史、研究の現状、将来への展望、論説などである。

解説は、海洋学上の重要な概念や興味深い話題を、基礎分野の異なる学会員および会員以外の一般読者も対象に、分かりやすく解説するものである。

賞記念論文は、学会賞・岡田賞を受賞された会員に日本海洋学会から執筆を依頼する論文である。なお、受賞者が日本語を母国語としない場合は、英語での掲載もある。

3. 編集委員長の許諾がある場合をのぞき、筆頭著者は本会会員に限る。共著者は、以下のすべての条件をみたす者に限る。

- 1) 構想およびデザイン、データ取得、データ分析および解釈において相応の貢献がある者。
- 2) 論文作成または重要な知的内容に関わる批判的査読に対応した者。
- 3) 出版原稿の最終承認を行った者。

4. 論文投稿に際しては、行番号を付した原稿および図表のPDFファイルを編集委員長に送付する。

5. 執筆要領(「投稿の手引き」参照)

- 1) 原稿は、原則として Microsoft Word を使用し、A4版の白紙に40字×25行程度になるように作成する。
- 2) 原稿のはじめには、題名、著者名、所属機関名を記し、それに続けて、和文要旨、キーワードをつける。
- 3) 原稿の最終ページには、題名、著者名、所属機関名の英訳を記し、それに続けて、英文要旨、英語のキーワードをつける。
- 4) 図、表は原則として英文で作成し、本文中英文題目等の前に Figure captions と題して英文の説明をつける。ただし、解説における図、表、および、その説明は、英文、和文のどちらでもよいとする。
- 5) 図、表、写真は350dpi以上の解像度で作成する。投稿段階ではPDFで編集委員長に送付する。
- 6) 脚注は用いない。
- 7) 引用文献は、本文中では「Richards (1996)によれば」、「深海(2000)によれば」、あるいは「(Richards, 1995; Richards and Broenkow, 1971)」、「(深海, 2000; 深海・浅海, 2002)」のように引用する。同一の筆頭著者について複数の文献がある場合は、まず単著論文を古い順に並べ、次に複著論文を古い順に並べる。著者が3人以上の文献は、「(Cox *et al.*, 1970)」、「(深海ら, 2000)」のようにする。*et al.* はイタリックで記述すること。URLは(<http://www.jamstec.go.jp/aplinfo/kowatch/>)のように記述し、リンク切れでないことを確認すること。また、ハイパーリンクは削除しておくこと。

引用文献リストは、タイトルを References として、最初の著者の姓のアルファベット順に並べ、以下の例にしたがって、原稿末尾にまとめて記載する。アルファベット表記のジャーナル名、書籍名はイタリックにする。doiが特定できる場合は記述すること。ただし、電子出版等でページ番号が特定できない場合は必ず doi を記述すること。また <https://> は必要ない。著者があまりにも多人数にわたる場合は、*et al.* を用いても良い。

論文

杉江恒二 (2018): 植物プランクトン動態および生元素循環に対する海洋酸性化の影響評価. 海の研究, 27, 125-140.

水産庁 (2021): 令和 2 年度水産白書 第 1 部令和 2 年度水産の動向. 1-235.
https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r02_h/index.html (参照 2021 年 9 月 1 日).

Hirano, D., T. Tamura, K. Kusahara, K. I. Ohshima, K. W. Nicholls, S. Ushio, D. Shimizu, K. Ono, M. Fujii, Y. Nogi, and S. Aoki (2020): Strong ice-ocean interaction beneath Shirase Glacier Tongue in East Antarctica. *Nat. Commun.* 11, 4221, doi: 10.1038/s41467-020-17527-4.

単行本

Gregg, M. C. (2021): *Ocean Mixing*. Cambridge Univ. Press, Cambridge, UK, 370 pp.

花輪公雄 (2017): 海洋の物理学 (現代地球科学入門シリーズ). 共立出版. 東京, 210 pp.

単行本の章

Furuya, K., T. Odate, and K. Taguchi (1995): Effects of a seamount on phytoplankton production in the western Pacific Ocean. p. 255-273. In *Biogeochemical Processes and Ocean Flux in the Western Pacific*, edited by H. Sakai, and Y. Nozaki, Terra Publishing, Tokyo, Japan.

6. 投稿論文が受理された時は, 下記の 2 点を編集委員長に提出する。

1) 最終原稿の Microsoft Word ファイル (図表等の説明ファイルを含むこと)

2) 350dpi 以上の解像度を持つ図表ファイル (PDF, JPG, GIF, EPS など。PDF の場合はまとめても差し支えない) を送付する。

7. 別刷は有料とし, 原稿受理後に著者が直接印刷会社に申し込む。

(2023 年 9 月)